

青銅合金 鑄造用地金

JIS H2202
日本工業規格表示工場
製造元

ミカゲ金属工業(株)

三重県安芸郡安濃町字日暮2222-2
電話 059-268-2206(代)
FAX 059-268-1949
販売元

ミカゲ金属株式会社

大阪本部
大阪市中央区博労町3-6-7 三都ビル2階
電話 06-6244-3115(代)
FAX 06-6244-3116
東大阪倉庫
東大阪市長堂3-11-20
電話 06-6782-3115(代)
FAX 06-6782-3143

並銅・下銅
真鍮グライ粉
アルミ・ステンレス

現金買入れ

新賀金属

八尾市太田新町7丁目24

電話 072-949-9750
FAX 072-949-9462

日刊メタルレポート

株式会社 日刊金属新聞社

発行人 小林恒甫

本社 大阪市城東区蒲生1-3-7
電話 (06) 6932-5443 代表
富山支社 富山市曙町1-30-508号内
北陸支社 電話 (076) 444-6836

購読料 半年44,100円(前納) 3ヵ月22,050円

輸 入 二次合金、スクラップ急増

輸入はすべて大幅に減少



橋本健一郎氏

橋本金属 アルミ 橋本健一郎氏リポート②

【概況】三月前半、エジプト発の中東政局不安を背景とした原油の急騰や、中国全人代で予想通り金融引き締め策について言及したこと。三月十一日に発生した東日本大震災による景気後退懸念からLMEアルミの現物後場売りは二、二八三ドルと、二〇〇ドル強の下落の前半締めとなった。後半は震災による原発問題に揺れるもG7での協調介入に始まる各国の日本支援を好感。復興需要への期待や米欧中の経済指標を好感しての自動車需要期待、震災による原料不足から四月二日現在、LMEアルミ(現物後場)は二、五八ドルでのスタートとなった。

【前月の経済指標】

- ◆日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前月比二二・七%増の七九万五、六三二台であった。
- ◆日本自動車販売協会連合会によると、三月の自動車販売台数(軽除く)は一〇・六%増の二七万九、三八九台。
- ◆三月発表の三ヵ月自動車生産計画(震災前の発表のため大幅変更の可能性あり)は二二万五千台(前年比三%減)であった。
- ◆国土交通省によると、新設住宅着工戸数は前月比六・七%減の六万二、二五二戸であった。(二面へ続く)

秋田製錬の亜鉛工場を再稼働

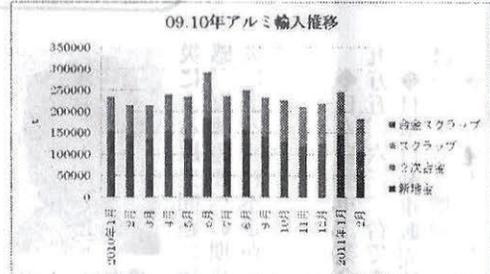
小坂製錬の銅工場もDOWA

非鉄金属大手のDOWAホールディングスは五日、東日本震災の影響で停止していた傘下の秋田製錬(秋田市)の亜鉛工場と小坂製錬(秋田県小坂町)の銅工場が今週に入り再稼働したことを明らかにした。連続稼働に必要な電力の確保にめどが立ったため。東北電力などの電力供給量に応じ順次設備を稼働させ、全面的な操業再開を目指す。再稼働後、亜鉛が産出されるまでには一週間程度かかるという。

秋田製錬の年産能力は約二〇万トンと、国内の亜鉛生産全体の約三割を占める。震災の影響で三井金属系と東邦亜鉛系の二工場を含め、一時国内の亜鉛生産の約六割がストップした。亜鉛は屋根材や自動車用鋼材のめっきなどに使われ、供給不足が懸念されている。一方、小坂製錬の年産能力は約二万五、〇〇〇トンと国内の銅生産全体に占める比率は一・五%。

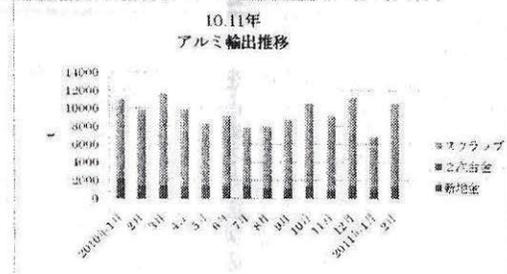
【前月の国内指標】
日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前月比七・二%増の一六万六、一九九t(昨年の前月比

輸入	12月	1月	2月
新地金	12万5722t	14万6098t	10万7760t
前月比	+5.8%	+16.2%	-26.2%
二次合金	8万9304t	9万8720t	7万857t
前月比	+1%	+7.2%	-26.2%
スクラップ	590t	831t	555t
前月比	-9.8%	+40.8%	-33.2%
合金スクラップ	4773t	4589t	3623t
前月比	3.5%	-4.3%	-20.7%
輸入推移			



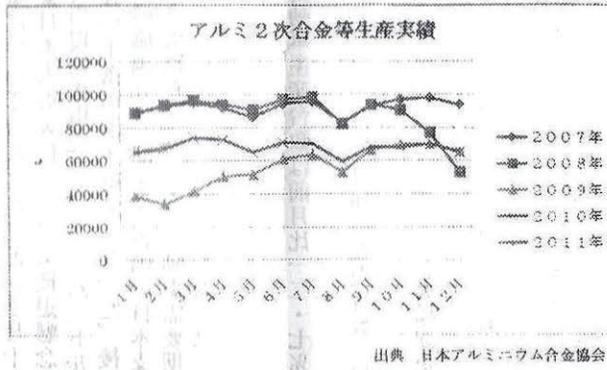
輸入は新地金が前月比二六・二%減の一〇万七、七六〇t、二次合金が二六・二%減の七万〇、六五七t、スクラップが三三・二%減の五五五t、合金スクラップは二〇・七%減の三、六二三t。

輸出	12月	1月	12月
新地金	198t	184t	132t
前月比	+196%	-7%	-28.3%
二次合金	1225t	905t	1179t
前月比	+43.6%	-26.1%	+30.1%
スクラップ	9733t	5780t	9199t
前月比	+18.5%	-40.6%	+59.2%
輸出推移			

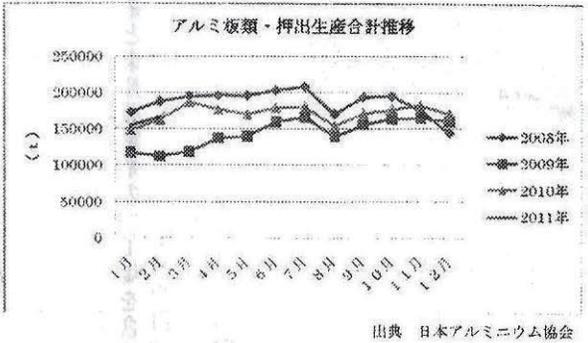


◆貿易指標
財務省貿易統計によれば輸出はアルミ新地金が前月比二八・三%減の一三二t、二次合金が三〇・一%増の一、一七九t、スクラップが五九・二%増の九、一九九t。

◇東工取(六日前引)
金 三、九八五円
銀 一〇七・五
白金 四、九二〇
パラジウム 二、一三四



日本アルミニウム協会発表のアルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は、前月比四・二%増の六万八、一六七tであった(昨年の前月比三・二%増)。



九・四%増)

(六面へ続く)

(二面より続く)

アルミスク
ラップ相場

一〇〇二〇円下げの可能性も

自動車的大幅減産予測を背景に

(二面より続く)
【見通し】

自動車生産は前月比一二・七%増の七九万台、昨年の前月比一一・七%増から大幅上昇。アルミ二次合金生産は前月比四・一%増と、昨年の前月比三・二%増から大幅上昇。

二月の国内自動車販売は、二七万九千台(前月比二〇・六%増)と昨年の前月比(五〇・三%増)からは震災の影響で大幅悪化。圧延・押出品生産数は前月比七・二%増と昨年の前月比九・四%増から悪化。

新設住宅着工数は前月比六・七%減の六万二千戸台。下げ止まりが見られるものの改善の気配はない。

アルミ輸出入統計は世界的な自動車需要の好調に伴いLME価格が上昇したため、国内価格と合わず輸入が減少。輸出はLME価格の急騰により大幅上昇、スクラップが六〇%増、二次合金が三〇%増(共に前月比)。

震災によるサプライチェーン問題は、もっとも深刻な自動車産業頼みの原料需給は、年度末・棚卸による購入抑制から在庫は少ないが、三月の国内自動車生産が半減との予測やそれによる販売不透明感から購入意欲は薄い。た

中国が〇・二五%追加利上げ

インフレ懸念が依然収まらず

の見方が多い。

中国人民銀行(中央銀行)は五日、一年物定期預金金利と貸出基準金利を、いずれも〇・二五%引き上げると発表した。六日から実施する。中国ではインフレ懸念が収まっておらず、人民銀行は追加利上げで沈静化を図る。

日本のお盆に当たる清明節の三連休が明け、六日から市場が再開するタイミングでの利上げとなる。利上げは今年二月九日以来、約二カ月ぶりで、昨秋以降では四回目。引き上げ後は定期預金金利が三・二五%、貸出金利が六・三一%。一年物以外の定期、貸出金利についても、期間の長短に応じて異なる幅で引き上げる。

中国では異常気象や国際穀物相場の上昇を受けて食品価格が高騰。住居費の上昇圧力も根強く、庶民生活を直撃している。原材料や賃金の上昇を背景に、物価高は工業製品にも波及。十五日に発表される三月の消費者物価指数(CPI)の年間上昇率は、五%を上回ると

だ二〇一〇年の自動車販売台数は中国一、八〇〇万台、米国一、一五〇万台、日本四六〇万台(世界四季報)から予測すれば、仮に日本の販売台数が半減したとしても、米中の経済成長予測から判断すれば十分補える数字ではあり、二〇一一年度世界販売という観点からは影響は少ない。

また輸入塊の上海シグマが四月現在で二、五八〇ドルと前月から依然上昇し、調達難が予測される。

LME価格については、震災によるサプライチェーン問題が深刻な自動車産業を背景に、アルミも一時的にパニック的に下げて二、五五〇ドルまで下落する場面も予測するが、世界的な景気回復、中国の格差是正策による内陸部への経済発展需要期待から、二、五五〇〇二、七〇〇ドルを予測。

価格が需給に左右されるアルミスクラップに関しては、合金メーカーは震災による三月の自動車大幅減産予測を背景に、パニック的な下げから三月後半価格から一〇〇二〇円下げ予測。ただし仮設住宅需要により増産予定のサッシメーカーについては据え置き予

LME非鉄在庫	(4月5日入電分)	4月4日		増減
		現在	増減	
銅	6,000	1,575	442,325	+ 4,425
GAW	0	0	0	± 0
	GAC	6,000	1,575	442,325
す	20	120	18,600	- 100
鉛	75	1,850	279,425	- 1,775
垂鉛 SHG	0	675	735,400	- 675
アルミ	8,375	3,900	4,593,175	+ 4,475
二次合金	100	740	73,860	- 640
ニッケル	0	528	123,228	- 528
アルミ二次(NASAA)	0	140	140,600	- 140

(単位:トン)